

「 日頃からの備え 」

北海道 札幌市立栄南中学校 3年 <sup>しみず</sup>清水 <sup>はなせ</sup>英世

鳴り続ける雷、滝のような大雨、耳を塞いでも布団をかぶっても聞こえてきたあの日のことは今でもはっきりと覚えています。

2014年8月20日「広島集中豪雨」私はその時広島に住んでおり、小学1年生でした。

朝が来て外を見ると家の前の一跨ぎできるほどだった川は今にも氾濫しそうで、透き通っていたはずの水は土砂が交ざって濁流になっていました。ただただ怖くて、ショックで、何が起きているか分からず、呆然と変わってしまった町の景色を眺めていました。土砂によって筋ができた山は土砂災害の恐ろしさを物語っているようでした。たった一晩でも町が土砂にのみ込まれてしまったのです。体験して感じたことは「災害がおこったときに冷静に判断し、行動することは思っているより難しい」ということです。とにかく恐怖が大きく、冷静ではいられませんでした。また、夜中におこったことだったので、避難できなかった人も多かったです。大雨の影響で土砂災害の前兆となる山鳴りは聞こえず、気づいたら土砂が迫っており、避難が遅れるという場合もありました。つまり、「自分はまだ大丈夫」、「家に居る方が安全」と判断してしまうといざというときには身動きがとれなくなってしまう。また、災害が発生してから避難場所を探したり、避難準備をしても間に合いません。さらに、災害に対する知識がないとその場での安易な行動は非常に危険です。だから、日頃から知識を取り入れておくことが大切だと思います。皆さんは土砂災害に対する知識をどれくらい知っていますか？災害時にどうやって家族と合流しますか？また、どこへ避難しますか？完璧にしていなくてもいざおきてしまうと何か困り事は必ず出てきます。少しでも多く知っておくことで、不安は軽減されます。また、避難用のリュックは用意してあるでしょうか。私の家では、防災リュックがしっかりと用意されており、取りやすい位置に置いてあったため、災害時には心強かったです。日頃から中身を確認したりラジオや懐中電灯が正常に動くか試してみることが大事です。災害がいつ来るかは誰にも予測できません。だからこそ、日頃からの備えが一番大切なのではないでしょうか。災害を乗り越えるために大事なことはもう一つあります。それは、近所との関わりです。災害時にもし一人だった場合、頼れるのは周囲の方々です。困った時に助け合い、協力し合うことで命を救うこともできるかもしれません。災害時は救助が来るにはとても時間がかかります。事前に近所同士で声かけをしたり情報の確認をするだけでもその人の命を守れるかもしれません。実際に私の家族も近所の方と声かけをし合っていました。普段会っている人と話せることで少し安心できました。周りの人と情報を共有することで不安も少し解消できます。「人と人で支え合う」ことは非常に大事だと感じました。日頃から顔を見てあいさつするだけでもお互いを認知するために大切なことだと思います。助けられる命の一つでも多くするために、近所の方々と日頃からコミュニケーションをとっていきたいです。

災害は忘れた頃にやってきます。鮮明に残っている記憶も忘れることはないと思っていてもどうしても時が経つにつれて緊張感が薄れていってしまいます。災害はなくすることはできませんが減災することはできます。いざという時のために、日頃から災害と向き合っておくことが大事です。自分、家族、友人など大切な人を守るためにも災害について今一度話し合ってみてはいかがでしょうか。